

# 随筆

## 多様な照明設計

株式会社ニライ設備設計  
上原 武

### 多様な照明設計

株式会社ニライ設備設計  
上原 武

協会からのリレーエッセイとして原稿依頼されました。何を書いてよいか思案しましたが、電気設備設計の中で特に日頃から重要だと思っていた照明設計について文献を利用し、私なりに考察をまとめてみました。

建築設備工事は、電気、空調及び衛生設備工事に大別され、照明は電気設備工事の中で受変電、幹線、動力、情報通信、防犯、防災などの設備と共に電気設備の一つに位置付けられる。

照明設備の主体は、ランプ、照明器具及び配線であるが、照明設計に際しては、単にある照度レベルを得るだけの計算技術だけでなく、ランプを含む照明器具からの光によってもたらされる光の環境を最も効率良く効果的に作り出す配慮が必要である。

#### 【住宅照明について】

住宅の照明は部屋を使用する人が決まっているので、生活者の好みによって明るさや雰囲気の違いが異なる。

明るい場所が好きな人は、全般的に蛍光灯照明を好み、雰囲気に重点を置く人は、白熱灯もしくは蛍光灯の電球色照明を好みます。

住宅の照明設計は、単に照度基準を満たすだけの照明器具選定、配灯を行ってはいけません。そこに住む人のライフスタイルに合った視覚環境、雰囲気及び家具やインテリアの照明、照明器具のデザインにも考慮した設計を行い、さらに経済性、メンテナンスにも配慮しなければいけません。

#### 【店舗照明について】

店舗は物販と飲食に大別できるが、同じ業種でも店舗の立地や規模、グレードによって照明の考え方は異なる。

物販店における照明の役割は販売促進に大きな影響を与える。例えば店の環境照明が明るく楽しい雰囲気であれば店内の滞在時間が長くなり、そこでスポットランプに照らされ輝く興味深い商品が目につくと、つい衝動買いしてしまうことも考えられるからである。

店や商品を光で魅力的に見せるにはどうしたらよいか。商品について言えば、これは商品の大きさや色、質感、そして商品が置かれている背景などによってその演出法は異なる。また店舗全体の印象も業種によって相応の雰囲気がある。

#### 【高齢化社会の照明について】

最近、実感としてひしひしと感じる事がある。照明環境が人に与える影響は、年齢によって大きく違うと言う事である。若い頃は照明の強弱で物が見ずらくて困った経験などは、なかったように思う。しかし40代中盤を超える頃からは、小さな文字が見ずらくて、蛍光灯の真下など、照度の高い場所に移動して読めた事が度々ある。これは私だけの事ではなく、多くの高齢者が感じている不自由さであろう。

近年のような高齢化社会においては、照明が日常生活に与える影響は大きい。高齢者の視覚は、若齢者に比べて低下している。高齢者の活動領域は、住宅だけではなく、オフィス、公共施設あるいは、屋外での活動など、益々広がってきているが、それぞれの居住空間の光環境は、高齢者にとって望ましいものとはいえない。高齢者の視覚機能を考慮した光環境を実現する

ためには、①十分な照度レベルを確保する。②演色性の優れた光源を使用する。③高輝度の光源や照明器具を視野内に入らないよう不快グレアを防止するなどが重要な照明要件である。

照明環境が人間の生理現象（体・心）に深く関わっていることを認識し、人にやさしい、より良い空間を設計を通して提案していきたい。

#### 参考文献

（社）照明学会：照明専門講座テキスト



一般社団法人 沖縄県設備設計事務所協会